



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.65

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2016. 冬・春

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

第51回企画展

よろいをまとった生きものたち

2016.
3.19 ▶ 5.15



いろいろな時代や場所に生きる
よろいをまとった生きものたちが
自然史博物館に大集合！
僕は「深海の部屋」で待ってるよ。

☎ …電話での予約申し込みが必要です(1ヶ月前の午前9時30分から)

タッチプール特別解説 わくわく！ドキドキ！ よろいをまとった海の生きものにさわってみよう

- 3月19日(土)、27日(日) 9:30~16:00
 - 講師：庄山由美 (元葛西臨海水族園解説員)
 - 対象：小学生以上 ■ 定員：なし
 - 参加費：無料 ■ 申込：不要 ■ 会場：博物館 エントランス
- ※タッチプールは3月19日(土)~5月15日(日)まで展示しています。

企画展自然教室 ダンボールアート王と作ろう！ ダンゴムシペーパークラフト

- 4月10日(日) 13:30~15:30
- 講師：ダンボールクラフト王 篠崎 均 (ザウルスワン)
- 対象：小学生以上、小学3年生以下は保護者と一緒に参加
- 定員：20名 ☎ ■ 参加費：50円 (保険料)
- 会場：博物館 実験室

企画展講演会 「水分調節のできるよろいを手に入れた昆虫」

- 4月16日(土) 13:30~15:30
- 講師：日本のファーブル 岡島秀治 (東京農業大学昆虫学研究室)
- 対象：小学生以上、小学生は保護者と一緒に参加
- 定員：100名 ☎ ■ 参加費：無料 ■ 会場：博物館 学習室

体験イベント 戦国時代のよろいをまってみよう！

- 4月29日(祝)・5月4日(祝) 10:00~16:00
- 担当：当館職員
- 対象：小学生以上 (よろいは、大人用・子供用各1着ずつあります。)
- 定員：各日 時間指定 限定6組 ☎
- 参加費：無料 (観覧券が必要)
- 会場：博物館 企画展示室

展示詳解 よろいをまとった生きものたち展示標本紹介

春の企画展「よろいをまとった生きものたち」では、自分の身を守るよろいのような体をもったさまざまな生きものたちを紹介します。大昔にはよろいをまとった生きものはいたのでしょうか。または、空中、地上、深海などにはよろいをまとった生きものはいるのでしょうか。

よろいをまとった生きものとしてクロカタゾウムシをご紹介します。ゾウムシは甲虫のなかでも特に硬い体をもった生きものですが、そのゾウムシの仲間なかでも特に硬いと言われているのがクロカタゾウムシです。特徴的なのはこの黒光りする真っ黒ボディと鉄アレー（ダンベル）のようなかわいい形です。企画展の担当学芸員はこのクロカタゾウムシのことをこっそりアレーくんと呼んでいます。このようなかわいい姿とは裏腹に、クロカタゾウムシの体は刺

そうと思った虫ピンをぐにゃりと曲げてしまうほど硬いのです。さらに、クロカタゾウムシはつるつるのプラスチックをのぼったり、逆さまになったりしながらてくてくと移動していきます。生きているクロカタゾウムシを観に、ぜひ企画展にお越しください。

(学芸係 菅原 久誠)



自然のコラム 『上野村のネズミをしらべる』

自然史博物館では平成 26 年から 3 年計画で上野村及びその周辺地域の調査を行っています。私の担当は小型哺乳類(特にネズミ類)です。そこで今回は 12 月のある日の調査の様子を紹介してみます。調査ではシャーマントラップという生け捕り式のワナを使います。調査地点に

着くとトラップとエサ、そして目印用のリボンを入れたかごを持って、山道に入っていきます。夏の頃の青々とした景



色から、がらりと変わって今では足下は落ち葉が敷き詰められていて雪や氷もちらほらと見られるなど、あたりはすっかり冬が目の前に来ていることを教えてください。

調査ではネズミが通りそうな所を考えながらトラップを設置していきます。今回は 1 つの地点あたり 40 個のトラップを設置しました。落ち葉をかき分けてエサを入れたトラップを直接

地面の上に置き、トラップの場所を示すリボンをつけて完了です。すべての地点でトラップを設置すると、すでにあたりは暗くなり始めました。これで初日の調査は終了です。

翌日、再び調査地へ向かい、昨日仕掛けたトラップを回収していきます。トラップを見、入口の扉が開いていれば、残念。ネズミは捕獲されていません。ときどき運良く（ネズミにとっては運悪く？）閉まっているトラップがあります。捕まえた地点を記録してトラップを回収します。すべてのトラップを回収し終えたら、捕獲されたネズミの計測です。最初の調査地点では 2 個体のネズミを捕まえることが出来ました。捕まえたネズミは体重や体の大きさ、性別などを調べます。今回捕まったのはいずれもアカネズミのオスでした。そして計測が終わったら捕まえた地点で放します。

こうした調査を繰り返して、上野村でのネズミ類の生息分布や個体群動態を調べています。また、博物館ではこのような調査を通じて、ネズミだけではなく様々な県内の自然についての情報を蓄積しています。

(学芸係 木村 敏之)

研究の扉 S-Netの详解

ある地域の野生生物の現在や過去の分布情報を知りたいとき、何をを使えばいいのでしょうか。分布が限られた生物の場合は地方植物誌や動物誌などの文献記録の通りですが、多くの種では大ざっぱな分布しかわからないこともあります。群馬県立自然史博物館（以下当館と示す）では収蔵データベースに標本を登録し、これを検索することによって分布情報がわかります。しかし群馬県産の標本は当館以外の博物館や大学にも保存されています。そこで役に立つのが日本中の博物館や大学等の標本情報を横断的に検索できるインターネットサイト・サイエンスミュージアムネット（S-Net）です。S-Netは国立科学博物館が管理し、誰でもアクセスできるサイトです。S-Netの分布情報は検索できるだけでなく、地図上に表したり、一覧をダウンロードすることもできます。一方、世界中の生物の分布情報を収集することを目的とした組織が地球規模生物多様性情報機構（GBIF）で、日本語のサイトもできています。このHPからも標本情報を検索できます。2015年9月現在GBIFには日本から450万件、世界では約5億7000万件の情報（観察記録を含む）が登録されており、うち約362万件がS-Netにも登録されています。

当館も2008年からS-NetとGBIFに2015年3月までに約7万件の生物標本の分布情報を提供しています。これらのサイトに標本情報を提供することの意義は何でしょうか？ある生物の分布を正確に把握するためには十分な産地情報が不可欠です。そのためにはより多くの収蔵機関がS-NetやGBIFに参加することが求められます。その意味で日本中、さらに世界中の人々へのより正確な情報提供のために当館もささやかながら協力しています。収蔵標本の情報を提供することで標本の研究への利用、標本の貸借を通して他の機関との交流も増えます。さらに標本情報の国際的な公開を意識することで同定精度の向上やより新しく一般的な分類体系や学名の採用を意識することにつながります。このようにインターネットによるデータの国際共有化が進む今、一地方博物館である当館はS-NetやGBIFを通じて日本中、さらに世界中に収蔵機関としての存在意義を発信しています。

*S-NetのURL：

<http://science-net.kahaku.go.jp/>

GBIF日本語サイトのURL：

<http://www.gbif.jp/v2/>

（学芸係 大森 威宏）



写真1
サイエンスミュージアムネット（S-Net）のトップページ



写真2
GBIF日本語サイトのトップページ

三波石と弘法井戸

群馬で育った方であれば、上毛かるたの【さ】の読み札「三波石と共に名高い冬桜」を覚えていて、「三波石」という石の名前を知っている人も多いでしょう。おおっと、つつい「石」と言ってしまったが、石のことを科学的には「岩石」と呼びます。さて、三波石というのは、群馬県と埼玉県の間を流れる神流川周辺で見られる青緑色のしま模様の岩石を石材として使う時の名前です。

今回で紹介するのは藤岡市日野の高井戸という場所にある弘法井戸です。藤岡市街地から繋がる県道 175 号を西に進むと、県道脇に案内看板があります(図1)。そこから山道を約 1.3km 行くと左手に弘法井戸があります(図2)。かつて弘法大師が水不足で困っていた高井戸集落の三波石を砕くと、そこから清水が湧き出したという伝説が残っています。弘法井戸がある高井戸集落には長寿の方が多いので、この水は長寿の水としても有名です。次の休日は、恐竜が生きていた時代(ジュラ紀～白亜紀)にできた三波石の間から、こんこんと湧き出るありがたい長寿の水をめしあがってはいかがですか。

(学芸係 菅原 久誠)



図1 県道175号線沿いの弘法井戸案内看板



図2 弘法井戸



図3 アクセスマップ

アクセス：上信越自動車道吉井インターまたは群馬藤岡駅から車で約 25 分(図3)。

移動博物館

自然史博物館は開館から19年を迎え、毎年16万人ほどのお客様に展示資料を閲覧いただいております。しかし、県内でも遠方の方々には、なかなか見る機会を提供することができないため、平成10年度より遠隔地の学校や公民館等を対象に、移動博物館を年3回行っています。

今年度は渋川市の赤城公民館、桐生市の広沢公民館、群馬県立盲学校で実施しました。この移動博物館では、移動先の会場規模や相手側の要望に応じ、資料などを選定し開催しています。また、会場の近隣の子どもたちを対象にした体験教室の時間も設定し、ふだんはなかなか味わえない博物館のイベントを体験し、喜んでもらっています。来年度もいろいろな場所で実施する予定です。お近くで開催する場合はぜひご参加ください。

(教育普及係 戸所 雄彦)



利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
 ■休館日 3月22、28日、4月4、11、18、25日、5月9、16日
 ■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円	300円
第51回企画展開催時 (H28.3.19～5.15)	610円 <small>(団体割引20名以上480円)</small>	300円 <small>(団体割引20名以上240円)</small>

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。
 ※有料者20名以上は団体料金で2割引となります。

群馬県立自然史博物館だより Demeter No.65

編集・発行 群馬県立自然史博物館
 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
 Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
 ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。